

物理的に追い払う方法

方法	使用方法・参考事項等
水鉄砲など	猫は水で濡れることを嫌います。但し、強い水流を直接かけないで下さい。 ※ 散水式ホースを設置しておいて、猫を見かけたら水を出すなど。ただし、人がやっていることがわかってしまうと、不在時に侵入するようになるので、猫に見破られないように隠れてすることが必要？ ※ 柑橘系の匂いを含んだ水だとさらに効果的と言われています。
センサー感知式散水機	センサーが感知すると自動で放水する製品が市販されています。 ※ インターネット通販で“ガーデンプロテクター（散水機）”などの名称で販売されています。価格は1万6千円程度。効果は確認していません。
ブザー	遠隔操作式のものやセンサーつきのものが防犯コーナーなどで販売されています。猫が通過するときに鳴らすと警戒して近寄らなくなると言われています。
超音波発生器	センサーで感知すると猫が嫌がる高周波の音を発生する製品が販売されています。 ※ 発生する高周波音は人の耳にはほとんど聞こえませんが、不快感を感じる人もいます。 ※ 猫の個体差で反応が鈍い（あるいは、効果がない）場合があるようです。また、最初は効果があっても、だんだんと猫が慣れてしまう場合があるようで、購入価格と効果の兼ね合い（費用対効果）を考える必要があります。

留意事項

このリーフレットに記載した方法は比較的効果があると思われる方法ですが、猫の個体差などによって効果は異なり、絶対に効くというものではありません。

また、一回で効くものでもありません。反復継続して行うことが大切です。

これらの方法を試される場合は、猫の侵入経路、通路、フン尿をする場所等を調べてから行うことで効果を上げることができます。

ポイントは、「不快な場所」ということを猫が憶えるようにすること（学習するよう仕向けること）です。

猫は愛護動物です。虐待にあたるようなことはしてはいけません。法律で罰せられます。

（動物の愛護及び管理に関する法律 第44条）

愛護動物を殺傷した場合 **5年以下の懲役または500万円以下の罰金**

遺棄・虐待した場合 **1年以下の懲役または100万円以下の罰金**

猫の忌避方法について



猫が庭などに入らないようにする方法

猫が庭や花壇・畑に入って
フンや尿をするのは、
その場所が周辺のどの場所よりも
「その猫にとって快適な場所」
だからです。

猫にとって快適な場所 = 猫が好む場所 とは...

- 1 人の出入りが少なく、番犬などいない場所
→ 「静かで安心できる」場所
- 2 やわらかい土や砂、芝生等がある場所
→ 「気持ちよく排便ができる」場所
- 3 エサをさがして歩かなくてもいい場所
→ 「簡単にエサが得られる」場所

これらの条件を満たした場所です。



猫が来ないようにするためには、「猫が好む場所」から「猫が嫌う場所」に変えることが効果的ですが、実際に行う場合、「どうすればいいのか」など悩んでしまいます。

そこでインターネットなどで取り上げられている**猫の忌避方法**をまとめてみました。

- ※1 インターネットなどから集めた情報ですので、根拠や効果が不明な方法もあります。
- ※2 猫には個体差があり、あまり反応しない猫もいます。
- ※3 方法によっては、効果が長続きしない場合や、反復継続して行うことが必要な場合が多いです。
また、だんだんと猫が慣れてしまっただけで反応しなくなる場合もあります。
場合によっては、「さまざまな方法を交互に行う」などの工夫をするのも効果的かもしれません。



「居心地の悪い場所」ということを、「猫が覚えるまで続ける」ことが重要なポイントです。

忌避剤

猫の嫌いな臭いや刺激性によって猫が近づきにくくする方法です。

- ・雨や風などで効果はだんだんと薄れます。効力を維持するために定期的に交換しましょう。
- ・猫が臭いに慣れてくると効かなくなります。同じものを長期間利用するのではなく、時々種類を変える必要があります。
- ・臭いがきついものや色が付いてしまうものもあります。
- ・あらかじめ、近所の人にも説明しておきましょう。

※ 化学薬品などは、化学物質過敏症など健康被害の誘因となる可能性があるので使用は控えてください。

方法	使用方法・参考事項等
木酢液・竹酢液など	<p>園芸用肥料としてホームセンター等で販売されているものを薄めて散布します。</p> <p>使い方：希釈して、猫の通る場所などに散布（又はスプレー）するか、容器に入れたスポンジや布に浸み込ませて置きます。</p> <p>ポイント：臭いは時間とともに少なくなります。 「嫌な臭いの場所」と猫が覚えるまで、気長に散布などを続けましょう。</p> <p>参考：木酢液・竹酢液を加工して使う方法</p> <p>材料：木酢液（約 400ml）、唐辛子（10 本～ 15 本）、レモンバームの葉（20～30 枚）</p> <p>作り方：(1) 500ml の空のペットボトル容器に上記の材料を入れます。 (2) 1～2 日後にレモンバームと唐辛子を除きます。</p> <p>使い方：4～8 倍に薄めて使います。（臭いがきつい場合は 10 倍位まで適当に薄める）</p>
市販の忌避剤	<p>ペットショップや薬局、ホームセンター等で販売されている市販の忌避剤を使います。</p> <p>※ 長期間にわたって効果が持続するわけではありません。 ある程度の期間ごとに繰り返し撒く必要がありますが、価格との兼ね合いも考えて使わなければなりません。</p> <p>※ 猫の個体差によって反応が鈍い・効かないなどの場合もあります。</p>
かんきつ類	<p>ミカンなど、かんきつ類の皮を撒く、あるいは、かんきつ類の香りのする薬品を置きます。 ※ かんきつ類の皮の場合、乾燥してしまったときの効果は不明です。</p>
ハッカなど	<p>ハッカの香りのするもの（芳香剤、ハーブ、練り歯磨き、（湿布薬？）など）を置きます。</p>
酢	<p>酢を容器に入れるか、スポンジや布に浸み込ませて置きます。 ※ 2 倍から 10 倍程度に水で薄めたものを噴霧します（毎日行う必要があるとのこと）。</p>
香りの強いハーブなど	<p>猫の嫌がる香りのするハーブなどを植えたり、ハーブの鉢植え（又はハーブ系の香料など）を置きます。</p> <p>効果があると言われている植物の例</p> <p>ランタナ、ユーカリ、ゼラニウム、ヘンルーダ、ローズマリー、レモングラス、柑橘類、ペパーミント、ニンニク、チャイブ、マリーゴールド、カニナハイブリッド（ドイツで開発されたコリウスの一種で犬にも有効と言われる） など</p>
重曹	<p>撒いたり、土に混ぜ込むことで、猫のおいを消すことができる。</p>
どくだみの葉	<p>どくだみの葉をつぶしたものや汁を撒いたり、どくだみを植えます。</p>
その他	<p>生ニンニクや唐辛子、香辛料、コーヒーかす、茶殻などをネットに入れて、猫の通り道に吊るしておくなどして、臭いの効果により忌避する方法もあります。</p>

構造物による忌避方法

出入り口や猫が休息する場所、猫が塀を飛び越える時に足場になる場所などに、猫が嫌がるものを置く方法です。

方法	使用方法・参考事項等
砂利（軽石）	<p>大きめの砂利を敷き詰めます。</p> <p>※ 軽石（中玉の大きさ）は安価で効果も大きいとの評価があります。 花壇などの場合は直径 1cm 程度の軽石が混じった観葉植物用の土を敷きます。</p> <p>※ ホームセンターで見かける防犯砂利を敷く（高価だが、防犯効果も含めた効果が期待されます。ただし、猫に対する効果は未確認です。猫に対しては大きさが小さめのものを選ぶと良いかも）。</p>
枯れ枝	<p>球根や種が植えている所に敷きつめます。 ※ 猫に掘り返されないとされています。</p>
トゲのある植物	<p>トゲのある植物を植えたり葉を撒きます。</p> <p>効果があると言われている植物の例</p> <p>カタチ、バラ、サボテン、ヒイラギ、ピラカンサ、地面に沿って延びるタイプのコニファーなど</p> <p>※ 猫の通り道対策として植える。ヒイラギの葉を花壇等の表土にすき込むと効果的との報告があります。</p>
地面をおおう植物	<p>地面をおおう植物を植えます。</p> <p>日当たりの良い庭に適した植物の例</p> <p>タイム、ヘリクリサム、ピオラ、オランダイチゴ、ケンタッキーブルーグラス、ブルーフェスク、リボングラス、レモングラス、ゼラニウム など。</p> <p>日陰になりやすい庭に適した植物の例</p> <p>アイビー、ツルニチニチソウ、斑入りカキドオシ、ラミウム類など。</p> <p>※ 植物が 10～30cm ぐらいの高さ（猫の目の高さぐらい）に繋がっていると、猫が茂みを嫌がりやすくなります。</p> <p>※ 茂みの高さができるだけ高く密であるほうが良い。やわらかそうな裸の土を見せないこともポイント。</p> <p>※ 軽石等を敷く方法を併用するなどの工夫をすれば、全体を植物で覆う必要がなくなります。</p> <p>※ さらにハーブ系・柑橘系の香りがする植物の場合は相乗効果が期待できます。</p>
水	<p>ホースでたっぷり水を撒きます。 ※ 猫は水を嫌う傾向があります。</p>
炭粉など	<p>ホームセンターや園芸店で販売されている園芸用の炭粉などを撒きます。 ※ 足に付き、猫が嫌がると言われています。</p>
とげとげシート	<p>ホームセンターや園芸店で販売されている「とげ状のシート」を敷きます。 ※ 全面に敷きつめなくても、跳び越えられない幅に敷けばよいとも言われています。 「敷き詰めた場合などは有効」という意見と「あまり効かない」という両方の意見があります。</p>
大きな石	<p>猫が物理的に歩けなくなる位置に石を置くなどの方法です。</p>
松ぼっくり	<p>猫が歩く場所に敷きつめると効果があると言われています。</p>
目の細かい網	<p>目の細かい網を敷くと爪がひっかかり歩きにくいと言われています。</p>
アルミホイル	<p>敷くと足音がするので、猫が嫌がると言われています。</p>
ラティス（トレリス）	<p>ラティスやトレリスなどのガーデニング用の木製の格子柵を倒して置きます。</p>
ネットや柵	<p>猫が乗り越えられない高さで囲うか、侵入路をふさぎます。 防猫ネットや防猫バーなどを設置するなどの方法もあります。 ※ 猫の足がかかる部分などがあれば 3m 以上の高さでも乗り越える場合があると言われています。</p>
その他	<p>やわらかい土の地面は猫のトイレの場所になりやすいので、タイルを敷きつめたり、コンクリートで覆うという方法もあります。ただし、効かない猫もいます。</p> <p>※ 水を入れたペットボトルを設置する方法は、効果はほとんどありません。 場合によっては、火災の原因となるのでやめましょう。</p>